



浜水高
図書館だより

令和3年度が始まりました

1年生は入学おめでとうございます。2，3年生も新しい学年で心を新たにしていることと思います。

さて、4月から当面の間、図書館の開館時間を昼休憩のみにします。放課後の開館（16時30分まで）を再開するときには連絡します。

今年度も新任の先生方をお迎えしましたが、2名ずつ「お勧めの本」を紹介していただきます。

まず、事務長の岩本和輝先生のお勧めの本からです。

『少年と犬』 馳 星周 著（文藝春秋）

傷つき悩む人間の心を理解し、寄り添ってくれる犬を描く第163回直木賞受賞作です。

私は犬を飼ったことがありませんが、装丁の犬がなんとなく目にとまり、普段は買わないハードカバー本を購入してしまいました。

犬（多聞）を中心にした連作短編集で、読みやすい内容です。「老人と犬」の章は、島根県を舞台にしています。

多聞は出会った人々に何かをする訳ではありません。世話をしてくれる人々の側にいるだけです。

多聞は飼い主の内面を映す鏡であり、抱えるものが大きいほど映るものも大きいのだろうと感じました。



次に、海洋技術科 機関コースの 田部井多聞先生のおすすめの本です。

『あやしい船医、南太平洋をゆく』 永井明 著 (角川書店)

私が、大学生で遠洋航海実習に行ったとき、練習船『耕洋丸』の船医であった著者の航海記です。

作家であった著者が50歳になって、船に乗りたばかりに、押し入れからホコリをかぶった医師免許を引っ張り出して船医になった、ペーパードクター永井明の海と空とマグロの日々を綴った航海記で、船での生活や寄港地での様々な体験について書かれています。この本を読むと遠洋航海の長い船での生活も少しは楽しく感じられると思います。船員になろうとしている人にはおすすめの本です。



お二人の先生方のおすすめの本、是非とも参考にしてください。

イメージ力をつける読書

みなさんは、SNS やメールで短い文章でやりとりすることには馴れています。長文を読むことが苦手な人が多いのではないのでしょうか。若いときに読書に親しんでおくと生涯にわたって書物が好きになるといわれています。読書の意義としては①論理的思考を高める ということはよくいわれますが、もう一つ ②イメージ力（想像力）を鍛えるということもあります。

かつては右脳とか左脳という概念がありましたが、今では疑似科学として扱われています。そのたとえでいえば、左脳に当たるのが論理的思考、右脳にあたるのがイメージ力になります。右脳、左脳という概念は疑似科学だとしても、論理的思考とイメージ力というのは、ものごとを考えて行く上で車の両輪になります。たとえば、建築という分野では、図面を見て建物をイメージしなければなりません。物理や化学で扱う、原子や素粒子などは目に見えないものをイメージしていかなければなりません。自然科学は論理的思考が大切だという人がいますが、イメージする力がないと自然科学はわかりません。読書によって、文章からいろいろなことをイメージする力をつけていただきたいと思います。